

平成 18 年度第 1 回 冷凍空調規格委員会  
冷凍用圧力容器溶接基準検討分科会  
議事録

日 時 : 平成 19 年 3 月 27 日(火) 10:00～12:00

場 所 : 高圧ガス保安協会 特別会議室(7F)

出席者 : 委員 : 樋口主査、栗須、下村、中尾、桑野、山本  
KHK : 荒井、松木、佐藤、瀬谷

配付資料

資料 1 冷凍用圧力容器の溶接基準検討分科会設置の趣旨、委員名簿(業種バランスシート)

資料 2 高圧ガス保安協会 技術委員会規程

参考資料 2-1 技術委員会の組織及び規格策定プロセスについて

資料 3 技術基準作成基本方針

資料 4 技術基準整備 3 ヶ年計画(平成 18～20 年度)

資料 5 高圧ガス保安協会 規格委員会規程

参考資料 5-1 規格委員会規程について

参考資料 5-2 KHK 技術基準策定プロセスの抜本的改正(高圧ガス '05.11)

資料 6 技術基準策定手順書

資料 7 冷凍用圧力容器の溶接基準

挨拶 : 会議に先立ち、KHK 荒井理事から挨拶があった。

委員等紹介 : 事務局から委員の紹介があった。

定足数報告 : 事務局から定足数を満たす旨報告があった。

議 案 :

(1) 主査指名の報告について

冷凍空調規格委員会において本分科会の主査に樋口委員が指名されている旨事務局から報告があった。

(2) 当分科会設置の趣旨、関係 KHK 規程類等について

資料 1～6 に基づき、当分科会の設置趣旨、当分科会の運営は技術基準策定手順書等 KHK の規程類に依る旨、技術基準作成に関する方針及び計画は技術委員会で決議されている旨、当該決議に則って規格委員会で当分

科会の設置が決議された旨等について事務局から説明があった。

### (3) 冷凍用圧力容器の溶接基準の見直しについて

冷凍用圧力容器の溶接基準の見直しにつき、次のような意見交換がなされた。

- ・この基準は、**KHK** の認定する溶接士が遵守する規程として位置づけられているにもかかわらず、規程の内容が設計面や機械試験などに及んでいる。このため、焦点がぼけるようであるが、これは **KHK** の認定する溶接士が管理的立場の者と捉えられているためである。
- ・現行の基準が制定された昭和 57 年当時と今とを比較すると、例えば自動溶接などは技術的にみて相当の開きがある。見直しにあたっては、時代にマッチしたものにしたい。
- ・現時点で溶接士の数は、およそ 270 名である。
- ・現時点では、本基準の溶接に係る規定については、例示基準にも規定がある。見直しにあたっては、例示基準との整合も図らねばならない。しかしながら、本基準は **KHK** の自主基準であるので、保安上妥当であれば例示基準と異なっても差し支えない。
- ・見直しのきっかけは、技術基準整備の一環であり、平成 19 年度上期に一旦区切りをつける旨の計画もあるので、時代にマッチさせるのはよいが、そのために多大の時間を要するとなると平成 19 年度上期に区切りがつかなくなるおそれがある。については、2 段階に分けてはどうか。
- ・次回までに、例示基準との整合、引用規格との整合等比較的短時間で時代にマッチさせられる点並びにそれ以外の事項に係る点等につき、事務局宛 4 月 20 日までに意見を提出し、今回はこれを基に検討することになった。

### (4) その他

次回は、平成 19 年 5 月 15 日(火) 13:30~17:00(予定)

場所は、後日連絡する。(注：KHK 特別会議室 (7F) )

以上